



URL <http://www.pippo.co.jp/>
Email pippo@diana.dti.ne.jp



子どもの本専門店

ピッポ

年間購読料(送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL&FAX 0543-45-5460

子どもに愛されたナチュラリスト
シートン

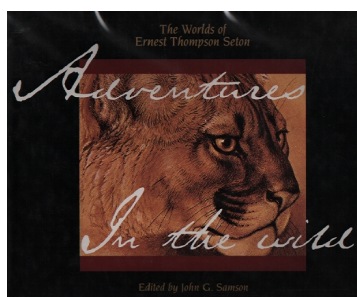
今泉吉晴著 福音館書店
2002年7月20日 発売

日本初の「シートン」の評伝です。
『動物記』でおなじみの作家、アーネスト・
トンプソン・シートン(1860~1945)
「オオカミ王、ロボ」などの話を読んだ方は
多いでしょうが、シートンがどんな考をもち、
どんな生涯をおくったのか、これまであまり知
られてきませんでした。

シートンはアメリカのフロンティアを、野生
動物、自然、そして先住民の人びとの側から見
てきました。そんなシートンの生き方に魅せら



近刊予約募集!



この洋書「シートンの世界」
はシートン自身が描いた動物
のイラストがたくさん載って
いる本で、アメリカの野生動
物についての本です。現在
は古書としてしか入手できま
せん。5冊ほど入手しました。
価額一万円です。

れた著者、今泉吉晴氏が、シートンの著作のす
べてと、シートンの友人たちの本を読み込んで
書き上げた、渾身の力作です。

また、シートンは、素晴らしい画家でもあり
ました。そのシートンの絵200点も、この本
に掲載されています。

シートンは、素晴らしい講演家でもありまし
た。当時の講演の貴重なレコードを入手した著
者は、その中からオオカミの話をこの本の中
で紹介しています。

シートンの肉声の一部は、この本の発売と同
時に福音館のホームページ
(<http://www.fukuinkan.co.jp/>)を通して、聞
くこともできます。

「私の親友、シートンを皆さんに紹介します」
と、著者はこの本の「はじめに」の中でいっ
ています。皆さんもぜひこの本を通して、シー
トンと親友になっていただきたいと思います。

ピッポではこの本の予約を募集しています。
予約していただいた方で、希望の方には著者の
サイン入りの本をお届けいたします。

ねーこの本読んだ？

『どうぐ』 (かこさとし・作 1260円
瑞雲社)

かがくのえほん 私たちが毎日使っている身近な物が総称して道具であることの説明から始まり、



世の中にある物で、人間の手以外で、人間が使う物すべてを道具と言うことや、巨大な機械も小さいな道具のよ

せあつめであることなどを分かりやすく説明している。この本は福音館のかぐのとも傑作集として以前でていたものだが、去年瑞雲社から復刊された。

『みつけたよ！ 自然のたからもの』 (澤口たまみ・文 かみやしん・絵 2205円 福音館書店)

この本の副題が、「かがくのとも版親子でたのしむずかん絵本」とあり、1「いきもの」2「くさばな・木」3「あそび」と3分冊になっている。3冊とも内容は、町に住む女の子がおじいちゃんの家へ遊びに行き、いとこの男の子と近くの自然と遊ぶという設定である。単なる図鑑と違って、一応季節も設定しており、実際に子どもが目にする自然が描かれているので、親しみ

やすい構成になっている。しかし、気になる点もある。たとえば、1巻の「いきもの」



では、主に夏の虫を登場させながら、頁を進めていくと草むらに秋の虫(キリギリスや鈴虫)

が出てくるが、その後の頁には堆肥の中でカブトムシを捕まえる場面が描かれている。これでは子どもに季節の混乱が生じないのだろうか？もう一つ、せっかく子どもが体験しながら自然に親しむ様な描き方をしているのだから、読者の子どもがもっと具体的に分かりやすい絵(絵描きさん)にすべきで、この絵では自然の状態(野外)が余りよく分からない。

『機関車・電車の歴史』 (山本忠敬・作 3990円 福音館書店)

日本では、1872年10月に新橋と横浜(28・8キロ)間に初めて汽車が走ったんだって。そのころは、蒸気機関車のこ

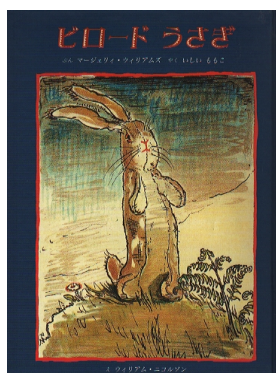


とを陸蒸気(おかしょうき)と呼んでいたんだって。世界で最初の蒸気機関車はイギリスの、トレヴィシックという人が

1804年に作ったんだって。それは重量が5トンで時速8キロで走ったそうだ。その約200年後の現在、日本の500系「のぞみ」や、フランスのTGVは最高時速300キロで走る。この本は、そんな機関車・電車がどのように発達してきたかを、山本さんの丹念絵で描かれている。鉄道ファンはもとより、機関車トーマス大好き子にもおすすめの一冊

『ビロードうさぎ』 (マージェリイ・ウィリアムズ・文 ウィリアム・ニコルソン・絵 石井桃子・訳 1470円 童話館出版)

初めは誰にも相手にされなかった、粗末なビロードのウサギが、ふとしたことからぼうやにかわいがられるようになる。やがてビロードうさぎは、古い木馬の言っていたように「ほんもの」になったことを感じるようになった。しかし、ぼうやは重い病氣(猩紅熱)かかり、ビロードうさぎが病原の巣だと医者に言われ、焼かれてしまうことになる。しかし、ビロードうさぎは子ども



も部屋の妖精によって本物のウサギになることができるのである・・・。小学校低・中学年ぐらいに紹介したい

ファンタジーである。石井桃子さんの新訳で50年ぶりに復刊。

境界巡視犬サスケ

山里からの便り

うちには二匹の犬がいます。一匹は「ギン」、この春十五才になった、白地に黒茶の斑がある雑種犬の雌で、ここに引っ越してきてすぐ貰ったのです。

ギンは生後一ヶ月で、私たち家族の「西日本リヤカー徒歩旅行」に連れて行ったのです。当時五歳の安曇(娘)とリヤカーと一緒に寝ている姿を思い返すとほほえましいものです。以来、病気もせず、ともに元気に山暮らしをしてきたのです。もう一匹の「サスケ」は一歳の黒虎毛の雄の甲斐犬です。まだまだヤンチャ坊主です。

犬を二匹飼う気はなかったのですが、境界巡視をしていて、以前から熊避けに犬を連れていけたらと思っていました。私の巡視する山(山梨県)には結構熊がいて、熊避けスプレーと鈴は必ず持参していきませんが、次ぎに飼う犬は、山へ連れていけるようにしつけないかと思っていたのです。

そんなとき、知人から、甲斐犬をくれる人を紹介されたのです。ほしいと思ったのですが、まだギンがいるので、躊躇しました。ギンがやきもちをやるのではないかなど、二匹を一緒に飼うことに自信がもてなかったのです。

でも、このごろのギンは相当ボケていて、もうあまり長く生きられないのではないかと思わせることもあったのです。もらえる甲斐犬は純粋種で、母親が賢いとのこと。甲斐犬は山岳向きの猟犬で、耐久力があり、気は荒いけど飼い主に忠実と聞いて、迷った末、いただくことにしました。

貰ってきたサスケは、胸に一筋の白い斑点があり、ころころして月の輪熊の子どものようで、とても可愛いのです。ギンとは言えば、さしたる反応を示さないのですが、私のほうが気を遣っちゃって、影でかわいがったりする始末です。何かやりにくいと思いがちながらも、今度は仕事に使う犬だということ、決意も新たに本を買ってきたりして、勉強しながら大事に育てています。ギンの時とは大違いです。しつけをちゃんとしてようと考えてやっただけで、どうも本のように行かない。まあ、盲導犬にするわけじゃあなし、要は、境界巡視についできてくれて、近くにいて、呼べばすぐもどつてくれれば合格なのです。

六ヶ月経った頃、山へ連れて行きました。最初はダメでした。ケヤキの大きな根を乗り越えられない、丸木橋や川などこえられなくて、その都度ダツコしねければならず、換えて仕事のじゃまになりました。でもこれも訓練。何回か連れて行くうちには、つぎつぎとクリヤーして、頼もしい面も見せてくれました。私と女房に一生懸命に着いてくる姿勢が、はつきり見えました。

ところが、慣れてくると今度は、どこかへ行っちゃうんです。いくら呼んでも戻ってこない。山の中は、サスケにとってもワンダーランドだったようです。初めは私たちも心配で待っているばかりでしたが、段々理解できたので、今ではそれほど心配せず仕事に集中できるようになりました。でも、ある程度近くにくれてくれないければ、熊避けの役にはたえないジャン。それに、刈り払い機を回しながら歩く時は、その危険を覚えてもらはなければ、大変なことになってしまいます。

サスケはまだまだ一人前(?)じゃないけど、私たちが望む犬になってくれそうな気配で、今後が楽しみです。ちゃんとした境界巡視犬になってくれれば、私たちも山仕事に一つ楽しみが増えますからね。それからギンですが、サスケがきてから、ボケがなおっちゃったようです。サスケの若さにつられたのでしょうかね。私の心配は取り越し苦労だったようです。

佐久間雅哉

インフォメーション

昆虫写真家海野和男さんの講演会とフィールドワーク

講演会

9月14日(土) 午後2時から4時
グランシップ2F映像ホール

内容は、海野さんが新たに撮った昆虫や自然の写真をプロジェクターに撮しながら、昆虫の不思議や魅力をタップリお話ししてくれます。親子で聞ける楽しい話が一杯です。(もちろん、サイン会も予定しています)

フィールドワークの集い

9月15日(日) 午前10時現地集合
午後3時現地解散

場所はまだ未定です。

(ここはどうかというご提案があれば、お申し出下さい)

内容は、昆虫採取をしたり、自然を探索したりと、海野さんといっしょに自然を思いっきり楽しむ企画を考えています。、デジカメで昆虫や植物の撮り方なども指導もしてもらえます。参加者がデジカメで撮った写真をその場でパソコンで見ることが出来る用意もします。大鍋でみそ汁も作りたいですね。

参加費 講演会
子ども 700円(当日800円)

おとな 1000円(当日1200円)

フィールド

子ども 1000円

おとな 1500円

(フィールドワークは事前申し込みだけ)

両日参加

子ども 1400円

おとな 2300円

両日親子で参加(子ども・おとな各一人)の場合は、3200円

(講演会は会場の都合で、100名、フィールドは150名までとさせていただきます。定員になり次第締め切ります。お申し込みは電話・ファックス・Eメールでおねがいいたします。)

海野さんのホームページはとてもおもしろいですよ。中でも、小諸日記は毎日更新され、写真と海野さんのコメントを見たり読んだりできます。

海野和男のデジタル昆虫記

URL

<http://www.wnn.or.jp/wnn-x/unno/>

岩波書店6月復刊

書名	著書	定価
しずくの首飾り	ジョーン・エ	2310円
ブラウネックさんにご注意	C・ネストリ	1995円
あの年の春は早くきた	C・ネストリ	2310円

今月のお話会

6月22日(土) 午後2時からピッポ店内で、宮崎久子さんの「ばあやのお話かご」を開きます。どなたでも聞きにきてください。時間は三十分〜四十分くらいを予定しています。

編集後記

去年はネットショップ「ピッポ古書クラブ」を立ち上げるため時間をとられてしまいイベントを開催することができませんでした。今年から来年にかけて色々計画しています。海野さんもその一つですが、他には絵本原画展なども予定しています。と言っても、こういうご時世ですから、単独では無理があります。マスコミや、デパート、自治体などと組むことで実現できればと考えています。予定は「ガース・ウィリアムズ展」「しろいうさぎとくろいうさぎ」・「大草原の」シリーズの挿し絵など「クマのプーさんのシェパードの原画展」「絵本ビデオのセル画と一部原画」(センダックやウンゲラーなど二十一人の絵本作家の作品・セル画は販売もします)興味の有る方はお問い合わせを!色々予定しています。乞うご期待!

グリム童話1・2・3	相良守峯・訳	各195円
アンデルセン童話1・2	大畑末吉・訳	2310円
ライオンが学校にやってきた	初山滋・絵	2205円
詩のすきなコウモリのお話	ファイリパ・ピ	1890円
	アス	0円
	ランダル・ジャ	1890円